

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、26～29℃台を示し、やや高めでした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——シケの日が多く出漁日数が少なかった。西彼地区では、マイワシなどが1日1統当たり24トンの水揚げで、前週の2.7倍（前年を上回った）。北松南部地区では、ウルメイワシなどが1日1統当たり12トンの水揚げで、前週並み（前年並み）。
- イカ釣——スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり1kgの水揚げで、前週の25%（前年を下回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり289kgの水揚げで、前週の6倍（前年を上回った）。壱岐勝本地区では1日当たり85kgの水揚げで、前週の9%（前年を下回った）。五島奈留地区では、1日1統当たり6kgの水揚げで、前週の29%（前年を下回った）。
- 定置網——五島有川地区では、マアジなどが1日1統当たり112kgの水揚げ。五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり305kgの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり91kgの水揚げ。対馬東岸地区では、カンパチなどが1日1統当たり125kgの水揚げ。
- 一本釣——野母地区では、マアジが1日1統当たり23kgの水揚げで、前週の2倍（前年並み）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（8/31～9/4の5日間）の沖合イカ釣（船凍船）は、大和堆周辺より再度ロシア海域に入域。赤イカは北太平洋で操業。沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～山陰沖～能登半島沖～佐渡沖～山形沖で操業。鳥取県西部（沖合船）では4日延69隻、総計7,536箱、1航海最高390箱、平均109.2箱。スルメイカ（20～40入）5,551箱、ケンサキイカ（2～4立）1,985箱の混獲となった。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第5-18号 小トビ（トビウオ未成魚）飛翔目視調査結果」を発表しました。漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>